

廃液処理状況の年推移

項目 年度	廃液処理量 (L)		廃液処理日数・回数 合計	廃液処理日数・回数		処理量/日数・回数	
	有機系	無機系		有機系 (D)	無機系 (B)	有機系 (L/D)	無機系 (L/B)
平成 23 年度	17,580 100/0/1,080	10,700	29,460	96 1/0/4	23	183 100/0/270	465
平成 24 年度	14,040 70/70/680	13,090	27,950	94 1/1/3	31	149 70/70/227	386
平成 25 年度	7,860 140/10/350	7,650	16,010	56 2/1/2	18	140 70/10/175	386
平成 26 年度	11,590 10/10/530	7,420	19,560	56 1/1/3	16	144 10/10/177	464
平成 27 年度	17,020 60/0/750	8,450	26,280	82 2/0/4	24	208 30/0/188	352
平成 28 年度	13,450 230/0/1150	8,920	23,750	77 2/0/10	25	174 115/0/115	356

- (注) 無機系廃液処理量上段は重金属の一括処理法であるフェライト処理量を示し、下段の数値は水銀、シアン、フッ素・リン酸系廃液の処理状況を示す。なお廃液中 COD 処理はフェライト処理の前処理として行っており、フェライト処理と同回数 of フェントン処理を実施している。
- (注) 平成 25 年度は 11 月から有機系処理プラント関係工事が施行された。11 月以降に回収された廃液等は解体時洗浄水とともに全量、適正に外注処理（有機系 4,180 L, 無機系 4,000 L）した。
- (注) 平成 26 年度は 12 月から無機系処理プラント関係工事が施行された。1 月以降に回収された廃液等（有機系 2,440 L, 無機系 2,790 L）は解体時洗浄水とともに平成 27 年度に処理を行った。

学部別廃液回収量の年推移(L)

		24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
国際資源学研究科	有機系					160
	無機系					2,440
	小 計					2,600
教育学研究科	有機系	50	220	210	180	190
	無機系	200	140	230	370	240
	小 計	250	360	440	550	430
理工学研究科	有機系	4,680	4,250	3,990	4,130	4,560
	無機系	13,500	8,950	8,860	8,780	7,050
	小 計	18,180	13,200	12,850	12,910	11,610
医学系研究科	有機系	6,620	4,430	6,350	6,830	4,830
	無機系	390	590	630	470	590
	小 計	7,010	5,020	6,980	7,300	5,520
附属病院	有機系	2,690	2,960	3,480	3,250	3,610
	無機系	210	210	290	130	140
	小 計	2,900	3,170	3,770	3,380	3,750
総 量	有機系	14,040	11,860	14,030	14,580	13,450
	無機系	14,300	9,890	10,010	9,560	10,460
	合 計	28,340	21,750	24,040	24,140	23,910

(注) 平成 27 年度以前の国際資源学部からの回収量については理工学研究科に加算してある。

廃液等種別回収量の年推移(L)

		24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
無機系廃液	A	70	150	10	60	230
	B	70	10	10	0	0
	C	680	380	570	750	1,160
	D	3,920	2,180	2,920	2,380	2,790
	E	6,910	4,840	3,900	4,730	4,690
	F	2,260	1,750	2,050	1,180	1,120
	G	390	580	550	460	460
小計		14,300	9,890	10,010	9,560	10,450
有機系廃液	H	4,170	4,340	4,110	4,420	4,340
	I	270	390	500	360	150
	J	230	190	150	410	390
	K	9,370	6,940	9,270	9,390	8,580
小計		14,040	11,860	14,030	14,580	13,460
合 計		28,340	21,750	24,040	24,140	23,910

備考：A：水銀系廃液， B：遊離シアン系廃液， C：フッ素・リン酸系廃液， D：酸・クロム混酸廃液，
E：重金属系廃液， F：アルカリ系廃液， G：写真定着廃液， H：可燃性廃溶剤， I：廃油， J：ハロゲン系
廃溶剤， K：難燃性有機廃液

平成 28 年度処理水分析結果

放流日	PH	Cd	Pb	As	T-Hg	Cr ⁶⁺	T-Cr	T-CN	Cu	Zn	Fe	Mn	COD	F	B
月日	5.8~8.6	0.03	0.1	0.1	0.005	0.2	2	0.1	0.5	2	10	10		8	10
4.21	7.08	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	ND	<0.5	<2	<10	<10	49	<8	<10
5.18	7.1	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	ND	<0.5	<2	<10	<10	45	<8	<10
7.13	7.15	<0.03	<0.1	<0.1	ND	ND	<2	ND	<0.5	<2	<10	<10	53	<8	<10
9.7	7.08	<0.03	<0.1	<0.1	ND	ND	ND	ND	<0.5	<2	<10	<10	136	<8	<10
11.1	7.1	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	<2	ND	<0.5	<2	<10	<10	48	<8	<10
11.30	7.08	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	<0.1	<0.5	<2	<10	<10	57	<8	<10
12.20	7.08	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	ND	<0.5	<2	<10	<10	70	<8	<10
1.24	7.07	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	ND	<0.5	<2	<10	<10	69	<8	<10
3.31	7.18	<0.03	<0.1	ND	ND	ND	ND	<0.1	<0.5	<2	<10	<10	127	<8	<10

備考：ND：不検出。バッチ放流：放流量 各 4m³。排水基準は秋田県条例第 40 条の第 2 種河川水域を適用，排水分析は JIS K 0102 による。PCBs，有機リンについては「秋田大学有害廃棄物暫定処置指針」に従い分析せず。